



PRESIDENT'S MESSAGE

RI 会長メッセージ



インスピレーションになる

ロータリアンの皆さま

毎週木曜日の朝、ポリオ撲滅の最新情報に関する E メールが世界保健機関（WHO）から私の元に届きます。このメールには、現在実施している予防接種活動の場所や実施方法、予防接種を受けた子どもたちの数、環境調査により判明したウイルス蔓延の兆候が見られる場所といったポリオに関するさまざまな情報が記載されています。しかし、毎週のことですが、E メールが受信ボックスに届くと、最初の数行に目を通し、その週に野生ポリオウイルスによるまひを発症した子どもがいないと確認するまで、心臓が一瞬止まるような緊張感を覚えます。

皆さん、これが今、私たちがポリオ撲滅に取り組んでいる現状です。E メールを開いた時に私が気になることは、つい最近まで私たちが心配していたような、1 年間にどれだけ多くの患者が発生するのか、ということではありません。知りたいのは、「今週は新しい症例があったのか、それともなかったのか」ということだけです。30 年前までは、毎日 1,000 人も子どもたちがポリオによるまひを発症していました。それ以降、私たちは年を追うごとに、そして週ごとに進歩を続け、ポリオ撲滅を宣言した数多くの国や地域を祝福してきました。目標の達成に近づくにつれ、新たな患者の発生数も減少の一途をたどっています。この数にも反映されていますが、感染している子どもたちの数も次第に少なくなってきています。木曜日に E メールを開いた時、私が気になるのは、そこに書かれている数字ではなく「今週はまひを発症した子どもはいなかったのか、それともいたのか」、これだけです。

ポリオ撲滅という夢はもう手の届くところにあります。しかし、私たちにはまだまだすべきことがたくさん残っています。

今月、私は全てのロータリークラブに対し、10 月 24 日の世界ポリオデーに合わせ、「End Polio Now」の取り組みを後押しするよう呼び掛けています。昨年は世界各地の何千ものロータリークラブがさまざまなイベントを主催し、ポリオ撲滅の啓蒙活動と募金活動を行いました。そして今年も、世界ポリオデーのイベントの登録数がこれまで以上になることを願っています。もし既にイベントを企画している場合は、endpolio.org に登録して広報し、参加者を増やしましょう。まだイベントを企画してなくても、まだまだ間に合います。endpolio.org では、さまざまなアイデアや、今年のライブ配信に関する情報、イベントを成功に導くリソースを用意しています。ぜひご覧ください。

世界ポリオデーは地域社会でロータリーに光を当て、これまでのポリオ撲滅に関する私たちの取り組みを知ってもらえる大きなチャンスです。また、ポリオ撲滅のためにロータリーが集めた金額に対し、その倍額を上乗せする、というビル＆メリンダ・ゲイツ財団の取り組みを生かすことで大きな効果があります。10 月 24 日の世界ポリオデーに、共に参加し、ポリオのない世界を実現するインスピレーションになりましょう。

BARRY RASSIN

2018-19年度 国際ロータリー（RI）会長

ロータリーの友 
Home Page 
www.rotary-no-tomo.jp

原文（英語）はこちらから